

「赤ちゃん・幼児触れ合い体験」事業

指導 2 課

1 はじめに

本事業のねらいは、中学校技術・家庭科の授業の中で、赤ちゃんや幼児と触れ合ったり、親が愛情をもってわが子に接する姿に触れたりすることを通して、赤ちゃんや幼児とのかかわり方の工夫を学ぶものである。同時に、命の大切さを感じる機会と捉え、生命尊重教育の一環とし、自他の生命を大切にできる生徒の育成を目指している。平成23年度には10校をモデル校として研究を委嘱し、平成24年度からの全校実施に向けて準備を進めている。

2 モデル校の取組内容

モデル校はおもに3つの授業形態で、展開、公開した。

○「ボランティア親子を学校へ招待」

生徒5～6人のグループに招待したボランティア親子1～2組に入ってもらい、親へのインタビューや幼児への絵本の読み聞かせ、手作りのおもちゃを使った遊び、手遊びなどの触れ合いを実施した。

○「幼稚園・保育園へ中学生が訪問」

中学生が、幼稚園や保育園を訪問し、園の生活のリズムに合わせて、外遊びや室内遊びなどの触れ合いを実施した。

○「幼稚園・保育園の園児を学校へ招待」

園児を中学校へ招待し、体育館や武道場で、手遊びやゲーム、手作りのおもちゃを使った遊びなどの触れ合い体験を実施した。

こうしたモデル校の授業を、さいたま市の全中学校の技術・家庭科担当者が参観し、各学校の実態にあった形態で、平成24年度から全中学校で実施予定である。

3 公開授業後の成果

○生徒の心の変容

○技術・家庭科担当者の指導方法の理解

○学校における協力体制の確立

○地域とのかかわりによる学校理解の推進

以上4つの成果があった。授業の初めは緊張していた生徒が、優しい表情に変わり、授業後には、「赤ちゃんはやわらかくてかわいい」、「親が自分を大切に育ててくれていることがわかった」など、幼い子を慈しむ心や自他の生命を大切にする気持ちが、大きくなっている様子が見られた。

4 おわりに

今後、研究モデル校の成果をもとに、「赤ちゃん・幼児触れ合い体験」指導の手引きを作成して、各学校に配付し、担当者に対しての研修会を開催する。平成24年度から全校で「赤ちゃん・幼児触れ合い体験」を実施し、生命尊重教育の一環として、一層の充実を図っていく。



(東浦和中)